

映画上映学習会

# 日常にある偏見差別、 あなたは、 どう声をあげますか？

— ドキュメンタリー映画  
「一人になる 医師 小笠原登と  
ハンセン病強制隔離政策」を通して考える —

【日時】

2022年12月10日(土)

13時から15時30分まで

【場所】

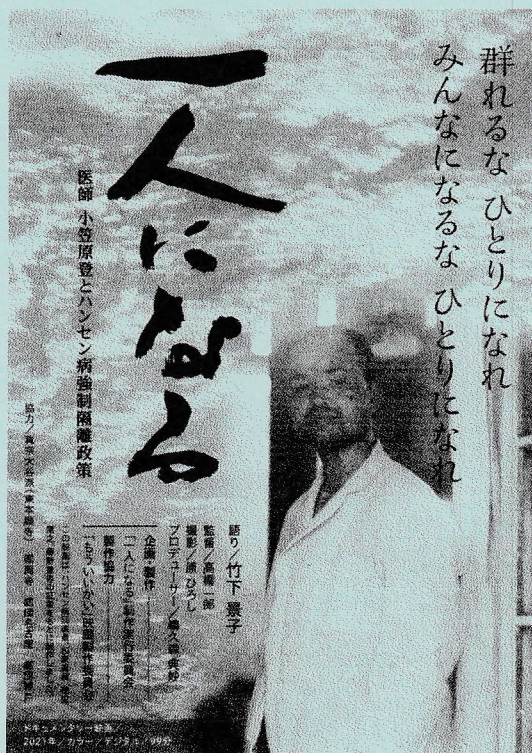
尼崎市立

地域総合センター神崎

(神崎町 14-22)

【意見交流の進行】

「ハンセン病問題を  
考える尼崎市民の会」



監督:高橋一郎、企画・製作:「一人になる」  
制作実行委員会、2021年、99分

「昔に比べたら、偏見差別は少なくなった」といわれることも多い人権問題ですが、それは法律や制度上の不平等が少しずつ改められているからではないでしょうか。

しかし、日常の、わたしたちの暮らしの中での、何気ない会話、やり取りの中には、偏見差別が現れる場面が、まだまだ多いのが現状です。そんな時、その場に居合わせた「あなた」は、その偏見差別に、どう声をあげますか？

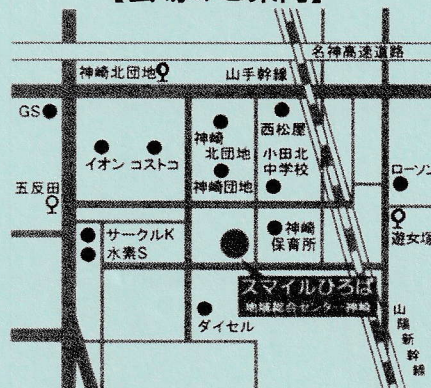
ハンセン病問題は、国による間違った政策が、偏見差別を作り出し、助長してきた歴史があります。ハンセン病回復者やその家族のみなさんが、地域社会で偏見差別のない暮らしを送るために、「わたし」が出来ることを考える時間にしたいと、映画上映学習会を企画しました。みなさんのご参加、お待ちしております。

### （映画について）

ハンセン病を患った人たちが、人間としての尊厳を奪われ、家族たちまで偏見と差別にさらされる「ハンセン病強制隔離政策」。その中で一人の医師、小笠原登は「ハンセン病は不治の病ではないし、遺伝でも、強烈な伝染病でもない、隔離は必要ない」と言い続け、患者を隔離から守ろうとしました。

真宗の僧侶でもあった小笠原登を生み出した「土壌」と、彼をのみ込んでいった国策、それに歩調をあわせた真宗集団。そのような時代社会にあって、「ひとりになる」ことに徹することができた背景や、人との出会いを描いたドキュメンタリー。

### 【会場のご案内】



【お申込み】 尼崎市立地域総合センター神崎まで

●電話・ファクシミリ 06-6499-3500

(平日9時~17時、第2・4土曜9時~17時)

●メール qqku9sw9k@clock.ocn.ne.jp

「名前、住所(町名まで)、電話番号またはメールアドレス、人数」  
をお申込みください。手話通訳が必要な方は、11月21日(月)  
までにご連絡をお願いします。



←こちらからも  
申込み可能です！

主催：尼崎市立地域総合センター神崎(指定管理者：NPO法人スマイルひろば)

協力：ハンセン病問題を考える尼崎市民の会